

次期クリーンセンター建設事業について

○建設候補地 建設候補地は現施設の南側の敷地とする。(約 17,000 m²)



○施設規模

	施設規模	(現施設の規模)
ごみ焼却処理施設	386t/日	600t/日
不燃・粗大ごみ処理施設	21t/日	75t/日

※ごみ焼却処理施設は災害廃棄物分の余力 29t/日を含む。

○概算工事費 約 274 億円

※主に平成 26 年度の実勢価格を基に算出した金額であり、今後必要に応じて見直していく。

※交付金を活用していく。

○公害防止基準

項目	現クリーンセンター 自主規制値	次期クリーンセンター 自主規制値	法規制値
ばいじん	0.02g/m ³ 以下	0.02g/m ³ 以下	0.04g/m ³ 以下
硫黄酸化物	50ppm 以下	50ppm 以下	K 値 1.75 (約 470ppm 以下)
窒素酸化物	90ppm 以下	90ppm 以下	250ppm 以下
塩化水素	50ppm 以下	50ppm 以下	約 430ppm 以下
ダイオキシン類	1ng-TEQ/m ³ 以下	0.1ng-TEQ/m ³ 以下	0.1ng-TEQ/m ³ 以下
水銀※	50μg/m ³ 以下	30μg/m ³ 以下	30μg/m ³ 以下

※大気汚染防止法の一部を改正する法律の施行期日は平成 30 年 4 月 1 日 (水銀に関する水俣条約の発効が平成 30 年 4 月 1 日後となる場合は、当該条約の発効日) である。

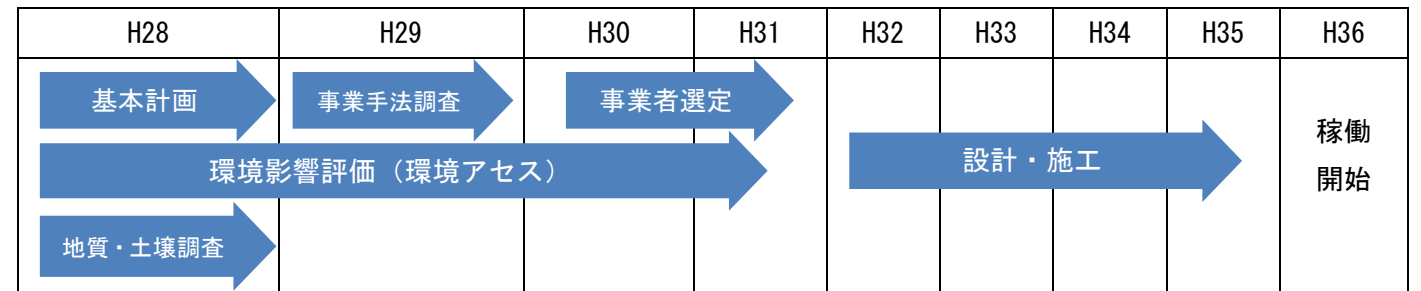
○ 事業スケジュール

平成 27 年度 : 基本構想策定 (パブリックコメント実施 11 月)

平成 28~31 年度 : 基本計画策定、地質・土壌調査、環境影響評価

平成 32~35 年度 : 実施設計・建設工事

平成 36 年度 : 稼働開始



○ 処理方式 ストーカ炉方式

概要

- ストーカ炉方式は、階段状の火格子に分かれた炉で燃焼させる方式である。ごみは、大きく分けて、乾燥・燃焼・後燃焼の順に 3 段階で効率よく完全燃焼される。なお、機種によって火格子の段数や形状、駆動方式などは様々であるが、基本的な機能は同じで、ごみを乾燥→燃焼→後燃焼のプロセスがとれる炉構造となっている。
- 燃焼温度は、約 850℃以上
- 補助燃料なしで処理できる低位発熱量の下限は、約 4,000kJ/kg 弱、処理可能な上限の低位発熱量は、15,000kJ/kg 弱である。
- 焼却灰発生量は、ごみあたり約 10%である。
- セメント・キレートを含む搬出飛灰量は、ごみあたり約 3%である。

○ 処理フロー

